

主題	シャローム東久留米における待機者の実態調査について
副題	～待機者のニーズの把握から見えてくるこれかの特養のあり方～

待機者調査		研究期間	6ヶ月
-------	--	------	-----

事業所	社会福祉法人三育ライフ特別養護老人ホームシャローム東久留米		
発表者：鈴木 さやか（すずき さやか）	アドバイザー：我謝 悟（がじゃ さとる）		
共同研究者：牧野 恵（まきの めぐみ）			

電話	042-467-3040	E-mail	
FAX	042-467-1561	URL	<a href="http://www.shalom-tokyo.net/">http://www.shalom-tokyo.net/</a>

今回発表の事業所やサービスの紹介	『シャローム東久留米は』1階が重介護棟、2階が軽介護棟、3階が認知症棟と利用者に分かれ、現在、入所者 82 名（東久留米市、西東京市在住者対象）、ショートステイ 10 名、計 92 名の方々が利用されている。平均要介護度は 4.13、平均年齢 85.5 歳（平成 25 年 9 月 1 日現在）で、『看とりのケア』などにも取り組んでいる。
------------------	---

### 《1. 研究前の状況と課題》

東久留米市の高齢者（65 歳以上）人口は、平成 25 年 9 月 1 日現在で、29,260 人、高齢化率 25.1%、また、西東京市で平成 25 年 9 月 1 日現在で、43,289 人、高齢化率は 22.2%となっている。今後はいわゆる「団塊の世代」が 65 歳以上となることから、本格的な高齢社会を迎える。

市内では、特別養護老人ホームは 4 施設あり、当施設は東久留米市・西東京市在住の方を対象とした 82 名が入所されているが、平成 25 年 9 月 1 日現在、当施設には、東久留米市 343 人、西東京市 668 人の方が「入所待機者」として利用申請をされている。

このように、待機者数は施設のベッド数をはるかに上回る傾向のなかで、入所担当相談員としては、日々の入所者への対応や、様々な業務に追われ、待機者の現状を細かく把握できていない現状があり、課題であった。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

今回、待機者数の多い、西東京市の現状を調査し、待機者が「特別養護老人ホームに入所するのは困難である」という不安感を軽減し、適切な時期に入所申込が出来るよう、また、「入所の必要性・緊急性のある人」「シャローム東久留米に入所を希望されている方々」を今後円滑に入所へ結びつけられる基礎資料とすることを目的とし、調査を行った。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

#### ① 調査対象者・調査方法：

調査対象者は、平成 25 年 3 月 31 日までに申し込みをされた西東京市の方に返信用封筒付きの郵送による全数調査を行った。出来るだけ多くの方へ調査をご協力して頂くために、申込書を記入された方、ご本人・ご家族、市の担当職員、ケアマネージャー、施設職員、4 つの西東京市内の地域包括支援センター、後見人に調査を依頼。

## ②調査期間：

期間は平成 25 年 8 月 26 日（月）発送、平成 25 年 9 月 13 日（金）締切

## ③調査内容：入所申込者状況確認書を作成

④回収率：577 通のうち、郵送による回答 348 通、電話による回答 25 通、施設へ来所されての回答 4 通、計 377 通（65.3%）

⑤活動の成果を出すポイントになった点：経費節減と回収率のアップのため、通常の、80 円の郵送代を、100 通以上は 65 円で届く、区域内郵便を活用し、調査書の返信用封筒は、戻ってきた、封筒のみ料金を支払うことができる（手数料は+15 円される）、料金受取人払郵便を活用。

## 《4. 取り組みの結果と考察》

377 通の回答のうち、入所取下げ者は 247 名、入所申込継続者は 130 名になった。今回は、申請を取り下げた方、申請を継続される方に分けて、考察した。

- ① i 入所取下げ者の内訳：「死亡」の 56.3%、次いで「他施設への入所」が 34.4%。  
ii 取下げ者の待機期間：25 か月～36 ヶ月（2 年以上～3 年以内）の 23.1%、次いで 61 か月（5 年以上）が 22.7%。「死亡」の待機期間については、61 か月以上（5 年以上）の 30.2%が最も多い。「他施設入所」の待機期間については、13 か月～24 ヶ月（1 年以上～2 年未満）が 27%と最も多い。
- ② i 入所継続者の内訳：在宅が 38.9%、次いで介護老人保健施設が 25.2%。  
ii 入所継続者の待機期間：49 か月～60 か月（4 年以上～5 年以内）が 40%、次いで 37 か月～48 か月（3 年以上～4 年以内）が 19.2%。  
iii 居住場所ごとの要介護度の変化について：どの居住場所でも、待機年数が経つにつれ、平均要介護度は上がっている。しかし、老人保健施設で生活をされている方は、要介護の変化は+0.03。病院にいます方は、治療が必要なため、要介護度は悪化の状況が見られる。

どの居住場所でも、待機年数が経つにつれて平均要介護度は上がっている。

iv 他施設の申し込み件数：入所申込継続者の 130 名のうち、106 名（81.5%）が他施設へ申し込まれている。全体の平均としては、1 人あたり 5.97 件他施設へも申込をされている。また、グループホームや有料老人ホームなどに入所されていても、特養の申し込みは継続中となっている。

## 《5. まとめ、結論》

今回の調査を行って初めての今後の課題

### ・継続待機申込者の

#### ①入所させたい家族

- ・在宅時からのサポート
- ・定期的な調査

#### ②入所が難しい人

- ・医療依存度の高い待機者
- ・軽介護度の待機者

#### ③入所をしたくない本人

- ・特養を地域での中心的な施設へ
- ・ご自身での最期の時をどう過ごすか

など入所相談員が関わり支援していくことが必要なのではないかと

## 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に文書にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

## 《7. 参考文献》

- ・西東京市役所「特別養護老人ホーム入所申込書兼調査書」（<http://www.city.nishitokyo.lg.jp/kura/sinseisyo/itiran/kaigohoken> 2013.10.9）
- ・新宿区特別養護老人ホームにおける待機者の実態等に関する調査研究事業（[http://www.city.shinjuku.lg.jp/sukushi/kaigo01\\_01012.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/sukushi/kaigo01_01012.html) 2013.10.9）

【メモ欄】